

テーマ：移乗時の身体的負担を軽減する方法

■ 背景

- 看護師をはじめとした介助者にとって、患者さんをベッド等から車椅子などに移動（移乗）させる時、身体的な負担がかかる。また、転倒のリスクが大きく、特に気を遣う瞬間である。
- 自力でトイレに行かれる患者さんの時は、ベッド～車椅子～トイレ（便座）を往復し、都度、移乗が発生する。
- 患者さんにとっても移乗時は不安があり、万一、転倒してしまうと身体的・精神的な苦痛を受けることになる。
- 介助者の身体的負担を軽減でき、患者さんにとっても安心して移乗できるような方法が求められている。



■ 現在の状況、対応方法

- 転倒等のリスクが高いと思われる場合や体格のいい（大きな）患者さんの場合は、介助者を3人にして対応することもある。
- ベッドの高さと車椅子の座面の高さが合っていれば、スライディングシートなどで移乗したりはできる。
- 入浴時は患者さんが裸なので（衣服等の）つかめるところがなく、一層、移乗が困難な状況である。

■ 現在の課題

- 介助者の技量によるところも大きく、経験が浅い場合は、介助者も患者さんも共に移乗が不安である。
- 移乗のための装置や器具はあるが、総室（大部屋）内では常時設置しておくことは難しく、毎回運ぶというような労力が発生することになる。

■ 使用頻度や市場性（マーケットサイズ）

- 移乗ロボット分野は、リハビリ目的もあり国内の医療・介護施設で導入が進められているが、同様の需要に対して介護用移乗リフトが既に存在する。

<参考> 市場規模は富士経済：11億円（2021年）

<参考> 福祉用具・機器を製造する事業者のうち「ロボット技術を導入した開発をしている」と回答したのは2019年度で23.2%（N=94）。（日本福祉用具・生活支援用具協会「福祉用具産業市場動向調査報告2019年度版」）

■ 解決策案の例（概念のみ）



<出典：看護root>

機能アイデア例

- 車椅子の場合は、座面の高さが容易に変えられるような機能
- 機器や装置で、簡単に場所を取らず、移乗を支援してくれる機能

■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>